

研究部だより

【数学I分科会】

日 時 令和元年12月19日(木)
場 所 東京都立武蔵高等学校
内 容 (1)研究・授業実践例等の研究協議
(2)他研究会や個人での研究・実践例等の報告

日 時 令和2年2月13日(木)
場 所 東京都立武蔵高等学校
内 容 (1)研究・授業実践例等の研究協議
(2)他研究会や個人での研究・実践例等の報告

【学習指導法分科会】

学習指導法分科会は「高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集づくり」というテーマで月1回、おもに土曜日の午後日比谷高校にて15名程度が集まり、研究協議を行っています。

その成果を日数教全国大会や関東甲信静ブロック大会で研究発表したり、教材集の冊子を作ったりしています。

例えば12/7の学習指導法分科会で発表された項目は次の通りです。

- 1) 余弦定理の証明に関する数学的活動
- 2) 条件付き確率(平成30年度試行調査問題より)
- 3) 組合せ確率のCBT問題
- 4) AI先生
- 5) 座標平面上の図形の面積について
- 6) 問題作成講座事前問題
- 7) 2点が動く軌跡の問題

次回以降は1/18, 2/29, 3/7です。メンバーは都立高の現職教員だけでなく、若手(大学生)から大ベテラン(70代)まで、中学や大学の先生、私立や国立の先生もいます。皆様のご参加をお待ち致します。

【ICT分科会】

日 時 令和元年9月28日(土)
場 所 東京都立保谷高等学校
内 容 (1)研究協議

- ① 8月29日ICT分科会(Google for Education研修会)、および、9月23日Google for Educationセミナーの報告
- ② Google Classroomの活用(実習)
- ③ Googleフォームによるテストの作成(実習)
- ④ 深い学びを実践するための指導の工夫とその考察
- ⑤ 日数教沖縄大会・講習会の報告
- ⑥ 数学ソフトウェアとその効果的教育利用に関する研究(RIMS)報告
- ⑦ 授業におけるデジタル教科書・デジタル問題集・ロイロノートの活用について

日 時 令和元年11月2日(土)
場 所 東京都立保谷高等学校
内 容 (1)研究協議

- ① Google Classroomの活用(実習)
- ② Googleフォームによるテストの作成
- ③ 数学I 2次関数「2次不等式の応用」授業実践報告
- ④ GeoGebra 関数グラフの活用

⑤ 数学教育における深い学びを実践するための授業の工夫に関する一考察

⑥ 計算能力と学習意欲の関係性に関する一考察

⑦ 深い学びを実践するための指導の工夫とその考察

⑧ CBT出題についての研究・具体的な問題の例示

日 時 令和元年12月21日(土)

場 所 東京都立保谷高等学校

内 容 研究協議

① Google Classroomの活用(実習)

② Classiを用いた授業の振り返り

③ Google Sitesを活用した教材の共有化

④ 計算能力と学習意欲の関係性に関する一考察

⑤ ICTを活用した授業の在り方について

⑥ GRAPESを用いた正弦定理と余弦定理の証明

⑦ PISA調査結果を踏まえた文科省の施策について

⑧ 教育ロードマップ(教師は必要ですか?)

【大学入試分科会】

日 時 令和元年10月25日(金) 18:00~20:30

場 所 東京都立新宿高等学校

内 容 (1)大学入試問題研究

①群馬大学・医学部 ②横浜国立大学

(2)11月5日授業研究の指導案の検討

(3)研究集録原稿案の検討

「ベクトル」「微分方程式およびその応用」

日 時 令和元年11月29日(金) 18:00~20:30

場 所 東京都立新宿高等学校

内 容 (1)大学入試問題研究

①電気通信大学 ②東京理科大学

(2)研究集録原稿案の検討

「整数の性質」「統計」「ベクトル」「通過領域」

「微分方程式およびその応用」

日 時 令和2年1月10日(金) 18:00~20:30

場 所 東京都立新宿高等学校

内 容 (1)研究集録原稿の最終確認

【定通分科会】

日 時 令和元年9月24日(火) 17:30~21:30

場 所 東京都立小金井工業高等学校

内 容 (1)研究授業の実施

単 元 数学I 数と式 「文字式の計算」

授業者 森田 聡(都小金井工業高)

(2)研究協議 質疑応答及び意見交換

日 時 令和元年12月26日(木) 18:30~20:30

場 所 東京都立小金井工業高等学校

内 容 (1)9月24日実施した研究授業の振り返り

(2)東京都定通教育指導体験発表会での発表内容の確認

(3)参加者の所属校の様子など情報交換

※1月17日(金)に定通教育指導体験発表会で研究成果発表

文責 編集部 武井 政博(都大泉桜高)